



組合員の雇用と利益を守る新生JR東労組に対し、 分裂策動を行う者たちを許さない1・23見解

JR東労組は18春闘を「大敗北」と総括し、これまでの運動を反省すると共に、組合員の声を受け止める新生JR東労組運動をつくり出してきた。そして、2018年4月の臨時大会以降、100名を超える仲間が再結集し2020年をスタートした。

そのような中、水戸・東京・八王子地本の一部の職場で、新生JR東労組運動と決別する分裂策動が報告されている。ある職場では、JR東労組に残るのか、分裂組織に行くのか、組合を辞めるのかの選択を迫られていると報告がされた。分裂組織に入らないのならばJR東労組の数を減らせという事なのか。その組合員の雇用と利益を守るという観点がない。分裂組織に入らなければどうにでもなれと言うことか！これが組合員に寄り添うという事なのか！

また、職場集会で分裂を提起され、組合員が協約について役員に尋ねると「脱退すれば協約が適用されない」と自ら言っていたにも関わらず「それはどうにかする」と方向性を示さず、誤魔化している。職場の組合員から「緑の風も討議資料も配布されない、本部のFAXニュースも掲示されない」「短い期間で判断させられる」「どうしていいのかわからない」「何で分裂しなくてはならないのか」「割れて欲しくない」「これから施策を担うのに協約がなくなってしまうから行きたくない」「どうせ一部の役員しかいかない」など混乱の声が中央本部に届いている。

分裂策動を行う者たちは、組合員を迷わせ、混乱を組織に持ち込むことを直ちにやめるべきだ！中央本部はこのような分裂策動を決して許さない！

全組合員は、分裂策動を目撃したら直ちに中央本部へ報告することを要請する！

また、あたかも分裂組織が第一組合になれるようなデマが流されているが、現在においても、水戸・東京・八王子地本の組合員数はJR東労組の過半数を超えていない。まして、会社との対立だけを組合員に求める分裂組織は少数派になることは明確である。良識ある組合員を騙して連れていくのはやめるべきだ！

分裂を先導するものは、18春闘の指導責任を反省せず、スト権投票時に賛同することを組合員に強いたように、またもや組合員を引き回している。自らの主義・主張が通らないからと言ってウソ・デタラメで組織を分裂させ、自らの意のままになる組織を目指す分裂策動を行う者達を許さないたたかいを良識ある組合員と共に作り出すことを宣言する！

新生JR東労組は、19春闘以降「新たなジョブローテーションの実施について」をはじめ、「賃金制度等の改正について」「ワンマン運転の拡大について」「旅行業部門の今後の方向性について」の諸施策や「感電事故の再発防止に向けた緊急申し入れ」「2019年度年末手当」など、合計50回を超える団体交渉等を行ってきた。

年末手当交渉団に対して、職場から創造的な檄の取り組みをつくり出して頂いた。交渉においては、安全・安定輸送の確立、台風の復旧作業への尽力、矢継ぎ早な施策に向き合い、それらを着実に収益に繋げてきた職場の苦労を主張し、会社と認識一致を図ってきた。そして、昨年同月数の妥結、年間6.09ヶ月を勝ち取ることができた。

これからも「安全・健康・ゆとり・働きたい」を実感できる職場をつくりあげるために、中央本部は新生JR東労組の旗の下に結集することを全ての組合員・離脱者に堂々と訴えていく。

新生JR東労組は、組合員の雇用と利益のため、会社の発展を目指し、労使関係においても職場の声を基に施策に真剣に向き合い建設的な議論を行うことは今後も変わらない。会社との対立だけをを目指す分裂組織とは、明確に違う。

JR東労組は、今年結成33年を迎える。JR東労組には多くの組合員のたたかいによって積み上げてきた労働協約があり、雇用と利益を守るために結集した多くの組合員がいる。今回の分裂策動は、この間の苦闘を無にするものである。

18春闘の誤りを認め、組合員の雇用と利益を守る新生JR東労組に対し、分裂策動を行う者たちを許さないたたかいを全組合員で作り出していくことを明らかにし見解とする。

2020年1月23日
東日本旅客鉄道労働組合

全組合員の雇用と利益を守り抜くため、あらゆる組織破壊策動を許さない千葉地本見解

JR東労組は、18春闘で顕在化した運動の誤りを猛省し「大敗北」と総括して以降、「新生JR東労組」の一員として労使関係の再構築と組合員からの信頼回復、そして離脱した仲間の再加入や新規加入を目指して運動を創り出している。

JR東労組千葉地本は、会社施策や職場で発生する問題に対して「信義誠実な労使議論」を重視し、組合員や離脱した仲間との議論を出発点に、団体交渉を通じて組合員の不安払拭につながる確認を行い、「労働者の心が反映された施策」へとつくり変えるために運動を進めてきた。中でも、組合差別や不当労働行為と思われるような事象については、職場で発生した事象を具体的に指摘し、グループ会社を含めて不当労働行為はあってはならないこと、疑わしいことの撲滅に向けて管理者に徹底すること、組合加入の有無によって差別しないことを繰り返し確認してきたことによって、離脱した仲間が再加入し組織強化・拡大を実現してきた。

一方、バス職場で抱える問題については、バス館山分会では乗務行路の問題を解決するために職場からアンケート運動を取り組み、定期委員会での発言へと積み上げてきた。また、バス八日市場分会では、成田空港線の新規路線開業で不安視された問題を組合員の集まる場を通じて意見集約し、バス関東本部とバス関東会社の団体交渉にまで高めて労働協約化したほか、バス両分会は新規加入を目指して職場から実践し、組合員を守るために連携してたたかってきた。

そのような中、東京・水戸・八王子地本の一部の職場では「①東労組を脱退して分裂組織に行くのか」「②東労組に残るのか」「③どこの組合にも属さないで無所属となるのか」の3択を迫られ、組合員からは「どうすれば良いのか分からない」「役員は考えが凝り固まり、話を聞いてくれない」「意見を言っても論破される」「相談もなく勝手に決まっていた」など、職場集会の内容や不安の声が中央本部に報告され、組織破壊策動が一部役員（以下、組織破壊策動者と呼ぶ）によって行われていることが明らかになった。

労働組合の役員の任務は、組合員が安全で安心して働ける職場と労働条件を実現し、労働協約によって組合員を守ることである。それに対して、今回の組織破壊策動は、JR東労組が締結してきた労働協約の適用外へと組合員を追いやる行為であり、役員として無責任極まりない。まして、役員の言動で組合員を不安に陥れることは、業務への集中を削ぎ、安全上も問題である。さらに、20春闘で定期昇給維持とベアの実現を目指す中での組織破壊策動は、12地本の団結と春闘を破壊する行為と言わざるを得ない。

JR東労組は、組合員とバスの仲間を置き去りにした18春闘のような運動を二度と繰り返さないために、これまでの運動の過ちを認め「大敗北」と総括した。なぜなら自らの過ちを認める組織でなければ組合員からの信頼を得ることはできないからである。その新生JR東労組に結集する良識ある組合員を惑わし、組合員の利益を奪う組織破壊策動者を許すことは出来ない！自らの主張を「正論」と称し、その他の主張を「丸飲み」「御用組合」とし、全てを中央本部と会社のせいにする組織に「仲間との助け合い」を基礎とする労働組合活動ができるとは思えない。

JR東労組千葉地本は、組合員や離脱した仲間から信頼される組織を目指して、これからも中央本部と共に歩み続ける。そして、地本や所属会社の壁を越えて、JR東労組組合員であり続けることを訴えて見解とする。

2020年1月28日
東日本旅客鉄道労働組合千葉地方本部

東京・水戸・八王子地本の一部の職場で行われている

分裂策動に対する見解を発出！